

「千葉の街弁」

澤田綜合法律事務所 弁護士 澤田仁史（平成2年普通科卒）



千葉市の弁護士事務所付近



オフィス相談スペース

現在、私は千葉市内において弁護士1人（私）、事務職員1人の小さな法律事務所を経営しております。弁護士登録をした当初は、弁護士が複数（私を含めて7人）いる事務所に就職して給料を貰っていたのですが（いわゆる「イソ弁」※居候弁護士の略）、約8年間勤務して独立し、現在に至っております。

弁護士業務としては、債務整理、離婚、相続、交通事故、刑事事件、少年事件など様々な分野を取り扱っております（いわゆる「町弁・街弁」※町の弁護士という意味）。専門と言うほどではありませんが、興味を持って取り組んでいる分野は消費者問題、社会福祉に関する問題です。これらの分野については、弁護士会の「委員会活動」や他の事務所の弁護士と一緒に「弁護団」を組むなどして活動しております。あまり収入にはつながらない分野ばかりですが、弁護士1人の事務所ということもあり、比較的自由にやっております。

自由がある反面、自営業者でもあるので、月ごとに売上げは上下します。年間を通せば毎年同じくらいの売上げにはなっていますが、新しい仕事になかなか入らなくて「大丈夫かな。」と不安な気持ちになることもしばしばあります。売上げについては厳しいことを述べてしまいましたが、一生懸命仕事をしていればそれなりの収入を得ることはできます。そして、ある程度の収入が確保できれば、自分の興味のある分野に積極的に取り組むことができるのが、この仕事（特に小規模な町弁）の大きな魅力です。やる気のある若い人には積極的に目指して欲しいと思います。

弁護士の所には、様々な悩みを抱えた人が相談に来ます。困っている人の悩みを解決するという点ではやり甲斐のある仕事ですが、他方で、人のトラブルの中に飛び込んでいく仕事ですから、ストレスの溜まりやすい仕事でもあります。悩み過ぎて心を病んでしまう弁護士もいます。弁護士になるには、ただ法律の知識があれば良いというものではありません。精神的な「図太さ」に加え、困った時には相談できる「仲間（人とのつながり）」を持っていることが必要だと思います。

私もこれまで多くの人に助けられてきました。法律問題といっても様々な問題が複雑に絡み合っていて、弁護士1人の力では解決できないことが多くあります。特に貧困の問題や高齢者・障がい者が関わる問題については、福祉関係者と連携して取り組むことが多くあります。弁護士業務に限ったことではありませんが、特に弁護士の仕事においては人とのつながりは非常に重要な「財産」となります。

将来弁護士を目指している学生さんがいましたら、「勉強はもちろん大事ですが、それだけでは足りません。多くの人と知り合い、話をして、つながってください。」と伝えたいです。また、「大変だけど、やり甲斐のある仕事ですよ。」とも伝えたいです。なお、公開されている裁判は誰でも傍聴することができます。興味がありましたら、夏休み、冬休みなどを利用して傍聴してみてください（土日祝日は休み）。弁護士業務のほんの一部に過ぎませんが、少しはイメージしやすくなるかもしれません。

略歴

- 1990年 八千代高校卒業
- 1995年 早稲田大学法学部卒業
- 1999年 司法試験合格
- 2000年 司法研修所入所（司法修習）
- 2001年 司法修習修了・弁護士登録（千葉県弁護士会）千葉綜合法律事務所入所
- 2009年 上記事務所から独立し、澤田綜合法律事務所開設、現在に至る。

【弁護士会における主な所属委員会】

- 日本弁護士連合会 消費者問題対策委員会、貧困問題対策本部
- 千葉県弁護士会 消費者問題委員会、社会福祉委員会、精神保健福祉委員会

